

訓練

全面緊急事態における 防護措置に関する情報

令和7年2月15日

鹿児島県災害対策本部

1

実施方針

避難の対象となる住民への措置

九州電力株式会社川内原子力発電所のPAZにおける、全ての住民を対象に避難を実施(対象:1市2,501人)

<防護措置に際しての基本的考え方>

- 2月14日14時00分に薩摩半島西方沖にて地震が発生。地震被害からの安全確保を優先し、安全が確保された場合にのみ防護措置を実施。

【薩摩川内市】

- ・ PAZ内の住民避難について、鹿児島市内沿岸部の大規模液状化により被災者受入れ困難となり避難先を始良市に変更 → 始良市の受入体制準備は完了。避難先施設の被災は無し。
- ・ 避難は原則自家用車とし、困難な場合はバスを使用(避難に必要なバスは28台確保済み)
- ・ 安定ヨウ素剤を携行していない者に対しては緊急配布場所(バス集合場所)において緊急配布を実施。
- ・ 社会福祉施設等入所者、在宅の避難行動要支援者のうち、避難の実施により健康リスクが高まる者は、引き続き放射線防護対策を講じた屋内退避施設において、避難に必要な準備が整うまで屋内退避を実施。なお、避難をする際には、安定ヨウ素剤の服用指示に従い、計画に定められた社会福祉施設や福祉避難所へ避難を実施。避難にはバス及び福祉車両を使用。

屋内退避の対象となる住民への措置

- 九州電力株式会社川内原子力発電所のUPZにおける7市2町(薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、始良市、さつま町、長島町)の住民は、屋内退避を実施(対象者数 198,140人)

2

避難及び屋内退避の対象者数

全面緊急事態における避難対象者数

市町地区		PAZ
		対象者数
鹿児島県	薩摩川内市	2,501人
合計		2,501人

※放射線防護対策施設において屋内退避中の施設敷地緊急事態要避難者を除く。

屋内退避対象者数

関係市町名		UPZ	
		対象者数	世帯数
鹿児島県	薩摩川内市	86,206人	41,295世帯
	いちき串木野市	27,472人	13,233世帯
	阿久根市	20,009人	10,045世帯
	鹿児島市	834人	470世帯
	いずみし出水市	21,329人	9,900世帯
鹿児島県	日置市	26,064人	11,803世帯
	始良市	2人	2世帯
	さつま町	15,405人	7,725世帯
	長島町	819人	378世帯
	合計	198,140人	94,851世帯

3

調整状況（全面緊急事態・15条）（2月15日13時20分現在）

〔PAZ住民（SE要避難者を除く）の避難に係る調整状況〕

地区名 (薩摩川内市)	避難先 (始良市)	車両の 確保状況	避難先 までの 移動経 路	避難先 の受入 体制
① 滄浪 (178名)	始良市 加治木福祉センター	○ バス3台(84名) マイカー(94名)	○	○
② 寄田 (120名)	始良市文化センター 加音ホール	○ バス1台(19名) バス3台(73名)※ マイカー(28名)	○	○
③ 水引 (1311名)	始良市高齢者福祉センター ほか3施設	○ バス17台(487名) マイカー(824名)	○	○
④ 峰山 (892名)	県立加治木特別支援学校 屋内運動場ほか2施設	○ バス4台(105名) マイカー(787名)	○	○

〔避難先までの主な経路〕

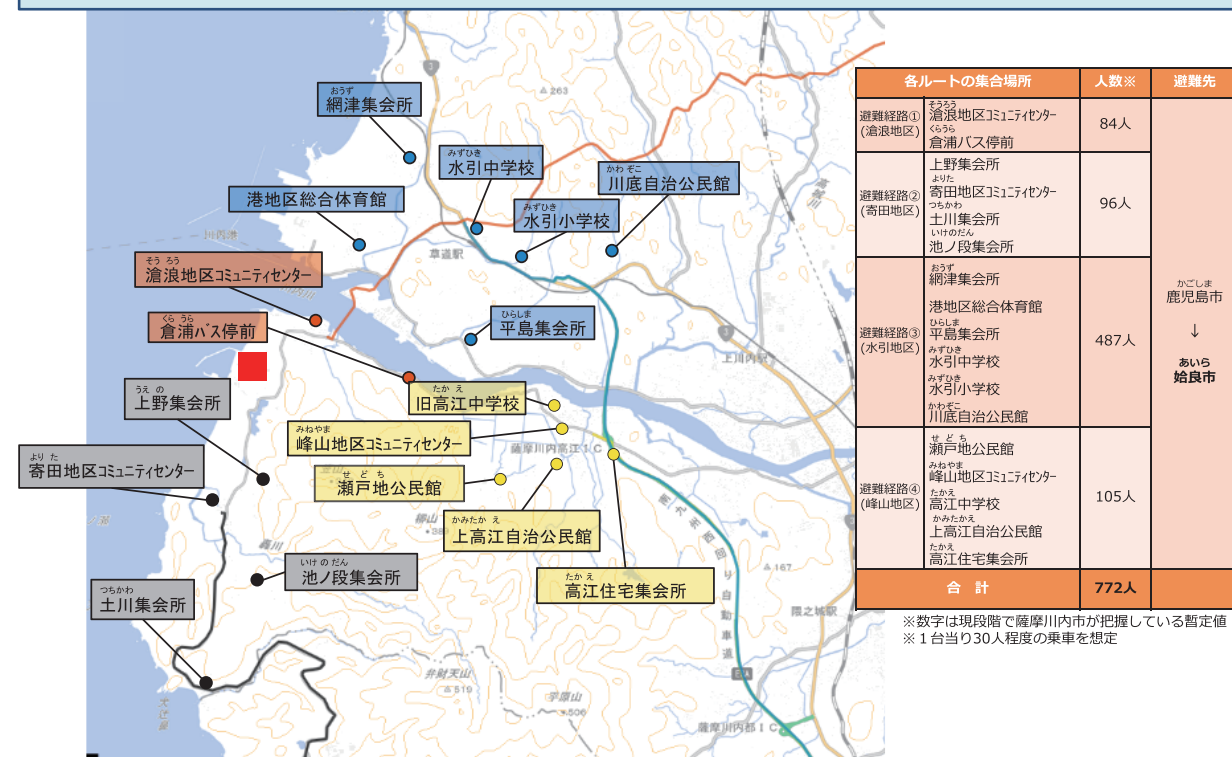


- 鹿児島市は沿岸部を中心に液状化被害により被災者の受入れが困難であり、始良市を避難先として調整、避難先受入施設についても準備完了
- 避難に必要な車両(バス28台)の確保完了
- 寄田地区の一部孤立した住民73名(※)については15日13:30より県防災ヘリ及び自衛隊ヘリ計2機、延べ5往復による避難を開始予定
- 避難による渋滞緩和のため、予備経路を確保するとともに警察による避難誘導を実施予定

4

自家用車で避難できない住民の数及び各集合場所への配車順路

- 薩摩川内市による戸別訪問調査の結果、自家用車で避難できない住民は772人
- 自家用車による避難できない住民は、各集合場所に集まり、鹿児島県が要請した車両で、避難先である始良市へ避難。



5

安定ヨウ素剤の緊急配布

- 全面緊急事態では、あらかじめ配布している安定ヨウ素剤を服用して避難を行う。なお、紛失等により安定ヨウ素剤を携行していない住民については、安定ヨウ素剤緊急配布場所となっている集合場所等で受け取った上で避難を行う。



6

留意事項（１／３）

PAZの避難

- 今後の避難の進捗状況については、関係機関が連携し把握するとともに、追加の車両等が必要な場合は、迅速に必要な措置を講ずるものとする。

【薩摩川内市】

- 薩摩川内市の住民避難には、自家用車及びバスを使用し、始良市の避難先施設（８施設）に避難する。

【安定ヨウ素剤】

- 避難に際しては、安定ヨウ素剤を服用して避難を行う。なお、安定ヨウ素剤の配布に関しては、以下のとおり。
- ✓ 事前配布されている住民は、服用の上で避難を行う。
- ✓ 薩摩川内市の紛失等により安定ヨウ素剤を携行していない住民に対しては、集合場所１７箇所で安定ヨウ素剤の配布を行う。

7

留意事項（２／３）

地震の対応状況

- ２月１４日１４時００分に薩摩半島西方沖にて地震が発生した。これにより、いちき串木野市（震度７）、薩摩川内市（震度６強）、鹿児島市（震度６強）、日置市（震度６強）等に物的被害が発生。
- 自衛隊の偵察及び関係機関の調査では、地震によりいちき串木野市を中心に広範囲で道路・建物の損壊が発生。全面緊急事態における避難先・避難経路については避難先市町の変更（計画上：鹿児島市 ⇒ 始良市）により確保されている。

バス等の確保

- 今後の避難の進捗状況については、関係機関が連携し把握するとともに、追加の車両等が必要な場合は、迅速に必要な措置を講ずるものとする。
- 避難用車両の確保が市災害対策本部で調整ができない場合は、鹿児島県災害対策本部で調整を行う。

避難を円滑に行うための対応策

- 鹿児島県、市町職員、警察官等により道路渋滞を把握し、主要交差点等における交通整理・誘導・規制、避難誘導・交通規制用自動制御板等を活用した広報等の交通対策を実施する。

8

留意事項（3／3）

避難所等の開設準備状況

- 薩摩川内市避難所8施設(始良市)は、開設中。
- 医療機関・社会福祉施設の避難先施設は受入中。

避難先で必要となる物資・燃料の確保状況

- 避難先で必要となる物資・燃料は、鹿児島県及び受入自治体の行政備蓄を活用するほか、鹿児島県と災害協定を締結している指定業者等からの流通備蓄を避難所に供給する。
- このほか、避難所における食料品、衣料品については、日本赤十字社による救援物資（毛布、緊急セット等）を配分するほか、総務省、農林水産省、厚生労働省、経済産業省を通じ、物資・燃料の安定的供給を要請し、確保に努める。

屋内退避を行う住民への対応策

- UPZの住民に対して、無用な被ばくをしないために、屋内退避の周知を徹底する。
- 家屋の倒壊等により自宅での屋内退避が困難である場合には、各市町により設定された近隣の避難所等にて屋内退避を実施する。
- 屋内退避に必要となる物資は、各市町の行政備蓄を活用するほか、鹿児島県における流通備蓄を供給する。
- このほか、必要に応じて、総務省、農林水産省、厚生労働省、経済産業省を通じ、安定的供給を要請し、確保に努める。

9

対象地域住民への本方針の周知に当たっての考慮事項

- 一般住民の避難等の指示の広報については、以下の点を考慮して周知を行うこと。
 - ✓ 周知方法として、防災行政無線、広報車、エリアメール、原子力防災アプリ等を活用し、複数の手段により住民に確実に周知すること。
 - ✓ 渋滞対策のため、自家用車の場合は、できる限り近隣の住民と乗り合わせて移動すること。
 - ✓ 屋内退避をする住民は、慌てずに各市町の指示に従い、自宅内または近隣の避難所で屋内退避を行うこと。なお、外出は極力控えること。
 - ✓ 地震の影響により自宅にて屋内退避の実施が困難な場合は、地震の影響がない安全な近隣の指定避難所等での屋内退避を実施すること。
 - ✓ 現在、放射性物質は放出されていないため、各市町の指示に従い、落ち着いて行動すること。

10

その他

汚染傷病者の発生状況(2月15日時点)

- 8時31分 1号機管理区域内で負傷者2名発生
〔 1名(A):意識なし, 自力歩行不可, 出血あり, 頭部外傷
1名(B):意識有り, 自力歩行可, 出血あり, 左下肢外傷 〕
- 8時48分 負傷者が発電所内の医務室に到着(応急処置実施)
〔 鹿児島大学病院, 済生会川内病院に受入れを打診 〕
- 9時10分 鹿児島大学病院へ1名搬送(A)
- 9時30分 済生会川内病院へ1名搬送(B)
- 11時25分 済生会川内病院での治療完了。内部被ばくの恐れがあるため, 入院(B)
- 11時55分 鹿児島大学病院での治療完了。内部被ばくの恐れがあるため, 入院(A)

原子力災害派遣医療チームの派遣

- 鹿児島大学病院, 済生会川内病院へ専門家を派遣